

今月の御教え

天が下の者はみな、神の氏子である。天が下に他人はない。

……「天地は語る」第四十条……

解説

この「氏子」というのは、特定の氏神の子孫のことであり、又、広義には、その氏神の守る地域に住んでいる人々を指します。教祖様はその「氏神」を引き合いに出して私達人間はみな、天地万物を司る「天地金乃神様」の「いとし子」であり、兄弟であると仰せられるのであります。そうして、教祖様はご自身を「生神様」と讃える人々に「あなた方が神様のお子であります。生神ということ、ここに神が生まれるということであります。私がおかげの受けはじめであります。あなた方もその通りにおかげが受けられます。」と申されたのであります。

西条教会初代の音五郎先生の在られ方も同じでありました。先生も多くの信奉者から「難儀を救済して下さい下さった大恩人」として尊敬されましたが、先生ご自身は「助けてあげた」との驕りは些かもなく「人はみな神様の大切な氏子である。その氏子を助けさせて頂いた」との神様への感謝のみでありました。

このコロナ禍はまだまだ続くでしょうが、私達は今、出来ていることにお礼を申しつつ、この現況を無駄にしない生き方をさせて頂きたいものであります。